

REGIONAL ECONOMY

# 日刊工業新聞

THE NIKKAN

# 工業

KOGYO SHIMBUN

# 新聞

4月4日 曜日

2022年(令和4年)

中日本

## リサイクルで「コトづくり」

### 7 創意無限大

起こせ!イノベーション

連の工程が1台で完結する。その優秀性が評判され、18年には国立環境研究所と日刊工業新聞社が主催する「環境賞」を受賞した。独自の技術を持つリサイクル機械メーカーと、その一環として、20年開始したのが電線X1カーとリサイクル会社、社間でアルミニウム電線をアルミ原料に再資源化する仕事を仲介する事業。エムダイヤが電線メーカーからアルミ線のスクラップを

エムダイヤ(富山県滑川市、森弘吉社長)はリサイクル機械の製造販売を手がけている。看板商品の分離・破碎機「エコセパレ」は電子基板、携帯電話といった小型家電、自動車部品などの異素材混合物の破碎と分離が可能だ。機械の原型が完成したのは1998年。その後、改良を繰り返し、2010年からはそぎ取るように破碎して金属のワイヤと分離する。従来は破碎機を何台も連結させ、破碎と分離を繰り返さなければならなかった一

す。リサイクル用の機械ミ線のスクラップを

### エムダイヤ

### 独自の剥離技術が核



購入し、切断機などのリサイクル機械と各アルミを、いったんエムダイヤが買い上げた後、電線メーカーに再販売するという新しいビジネスモデルだ。リサイクル機械を売るだけでなく、資源化した物のやりとりも仲介する新しいビジネスモデルだ。また、さらなる

コトづくりとして、これを施し、デキ機に用いるのほど使用済みの自社製リサイクル機械を修理して再生する「アップサイクル」にも取り組んだ。販売済み自社製機械の下取りを積極的組みだした。販売済み自社製機械の頭数がし、使える部品を再生し、使える部品を再生して新しい価値を付加する。まず、顧客に販売した中古の機械を1台取り出し、部品を取って再塗装や補修(名古屋・江刈内雅史)

### 投資会社の目線

【名古屋中小企業投資育成 業務第四部 高橋まり奈主任】「もったいない!」を方々に「をコンセプトに、異素材混合物を再資源化する独自技術は、環境意識の高まりを追い風に、確かな成長を予感させる。技術力を磨き「ダイヤモンドのようにキラリと光る会社」を自指す同社を応援したい。